



心理学から見た思考力の評価 —本物の思考力を評価しよう—

立命館守山中学校・高等学校 大橋 康一 (おおはし・こういち)



—使用教材—

【新詳 世界史探究】

1 はじめに

現行高等学校学習指導要領は、目標に「見方・考え方」の育成をうたって登場した。これは思考力の育成を意味すると考えられ、その点を批判する声はあまり聞かない。しかし思考力が何か、どのように育成するのか。そうした基本的な点が不十分なまま、多くの学校や教員は船出を余儀なくされた。そして今、舵のない多くの船が波にもまれ、乗組員は苦しんでいる。本稿で紹介するのは、その苦勞を軽減するとともに、全体を良い方向に向かわせる方法の実践例である。

2 思考力に注目した経緯

歴史科目における暗記学習の横行は、今に始まったことではない。生徒にとってそれらは苦しいだけで効果が少なく、テスト後にほとんど記憶に残らない。それは誰もが分かっているが、他に方法はないように思われている。

筆者は教員人生において、主に進路指導を担当してきたこともあり、生徒が自律的に学ぶ方法の研究はライフワークとなった。そんな中で最も役立ったのが、大学時代に学んだ心理学である。当時は知能や思考の本質の解明が始まり、心理学が学習科学に発展し始めた時期だった。

現在の学習科学では、知識は脳内で単語のように単独で存在するのではなく、常に他の知識とつながっている状態であることが分かっている。また思考とは「何らかの目標に到達するための精神活動」と定義¹され、判断や推論などの機能を含むとされている。そして表現（記述や発言）とは、思考の結果として実行されるものである。つまり学習指導要領の3観点「思考力・判断力・表現力」は、思考力を異なる角度で表現したものといえる。

思考力の評価に本格的に手を付けたのが、アメリカの教育学者 B. ブルームらである。彼らは、冷戦が本格化した 1948 年に、当時アメリカで横行していた暗記教育

表 1 思考力の分類 (改訂版タキソノミー)

思考の分類	筆者による注	
理解する	解釈(変換)する	図像資料から概念を抽出する
	例示する	資料に含まれる概念の例(または共通点)を探す
	分類する	資料に含まれる概念を分類する
	要約する	資料の内容をまとめる(またはまとめたものを比較する)
	推論(予測)する	資料から推測したり、予想したりする
	比較する	複数の資料を比べる
	説明する	歴史の流れに沿って資料を並べる(つなげる)
分析する	差異化する	区別する。違いを見ぬく。何かに焦点を当てる
	組織化する	構造や秩序を見ぬき、位置づける
	帰属化する	本質を見ぬく。主義や思想と結びつける
評価する	点検する	正誤や適否を判断する
	批評する	解決方法を検討する。複数の情報を参考に、総合的に判断する

※石井英真 (2020) 「現代アメリカにおける学力形成論の展開 再増補版」 東信堂 p.474 ~ 475 を参考に改変。

の改善に向けて、教育目標をリスト化した分類表 (タキソノミー) を作成した。その最新版が 2000 年に提案された「改訂版タキソノミー」(以下、タキソノミーと表す) である。つまりタキソノミーとは、事実上の思考力分類法である。分類が分析の基盤であることは、論をまたないだろう。またその有効性は、読者が自身で判断できるだろう。

表 1 はタキソノミーの一部である。本来はもう少し大規模なものだが、本稿では石井² (2023) にならって現場での実用性を優先し、思考力に限定したものである。以下は、世界史の共通テスト本試験 3 年分の中で最も頻度の高い (計約 98%、表 1 を基にした筆者の調査による。p.17 も同様) 4 種の思考力である。

○解釈 (変換) する

人間はコンピューターと異なり、写真や風刺画などの画像をそのまま扱えず、必ず脳内で情報 (知識) に変換する必要がある。そうした図像等を解釈する思考の過程を図に表したものが、図 1 である。その典型的な問題例をその下に示す (以下、図 2 図 3 も同様)。

○推論 (予測) する

主に史資料などの文字資料から推測される内容を基に判断する思考力である (図 2)。国語や日本史で使わ

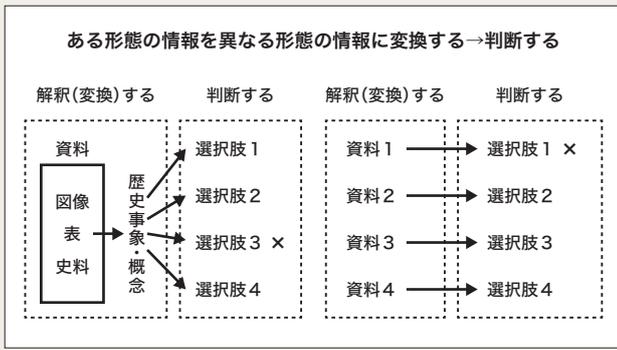
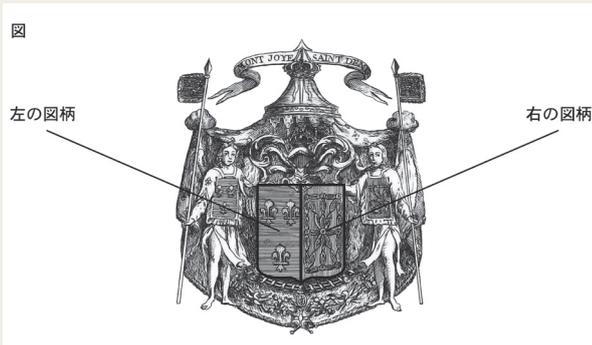


図1 タキノミー「解釈(変換)する」

問題例① 令和5年度大学入学共通テスト
『世界史B』本試験 第2問 問1より抜粋



小林：中央に二つの図柄があります。左の図柄は、中世のヨーロッパについて勉強した際に出てきたクレシーの戦いの図版で見たことがあります。
後藤：ユリの図柄ですよ。 (中略)
先生：(中略) ユリの図柄は、アンリ4世が以前の王朝とつながっていることを明確に表しています。
問1 前の文章と家系図を参考にしつつ、前の図について述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。
①右の図柄は、クレシーの戦いにおける旗の図柄と同じである。
②左の図柄は、アンリ4世がカペー朝とつながりがあることを表している。
③フランス王家とイングランド王家との統合を表している。
④アンリ4世が父からナバラ王位を継承したことを表している。

れ「国語的」と表現されるが、共通テストが思考力を重視する以上、当然なことだろう。

○説明する

人間は複数の知識を得ると、そこに論理的なストーリーや何かの順序、因果関係などを見いだして理解しようとする。いわゆる「歴史の流れ」と関係する思考力である(次頁、図3)。

○点検する(次頁、図4。問題例は省略)

「記述内容を、知識を使って点検する」という、単純

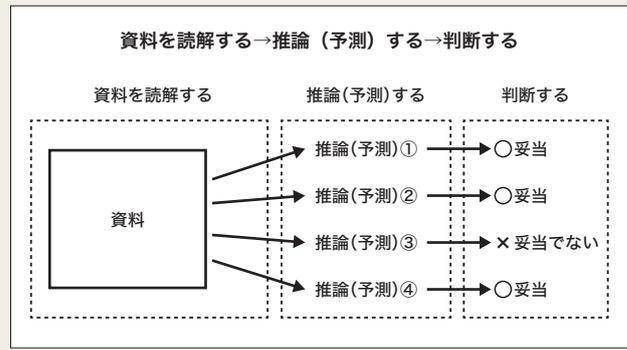


図2 タキノミー「推論(予測)する」

問題例② 令和7年度大学入学共通テスト
『歴史総合、世界史探究』本試験 第1問 問7より抜粋

・イラン=イスラーム革命の結果、女性はヴェールなどで髪や肌を隠すように義務づけられ、高校まで男女別学となった。
・小学校の様子を描いた挿絵1・2は、小学1年生の国語教科書のもので、教室には、それぞれの時期の国家元首の写真が掲げられている。
問7 (挿絵1、2(図は省略)に関して) 述べた文あ～えについて、正しいものの組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。

- あ 挿絵の授業風景を時代の古い順に並べると、挿絵1→挿絵2となる。
 - い 挿絵の授業風景を時代の古い順に並べると、挿絵2→挿絵1となる。
 - う イラン=イスラーム革命の結果、西洋化が推進された。
 - え イラン=イスラーム革命の結果、イスラームの教えに基づく共和国が成立した。
- ①あ・う ②あ・え ③い・う ④い・え

な思考力である。数年前まで入試問題の大半を占め、共通テストでも最多の出題率(3年間で約61%)である。もっともこの形式は、一般的に知識問題や正誤問題と呼ばれており、思考力として扱うことに抵抗がある人は多いだろう。心理学的には思考の一種に違いないが、他のものとは同列に扱わない方がよいだろう。

○その他の思考力

タキノミーは他に8種類あるが、その中で今後重要さが増すと思われるものが2つある。それが、歴史的 事象の抽象化力を問う《例示する》と《帰属化する》である。因果関係と相関関係の区別を問う《説明する》に当たる問題もこれまであまりないので、今後より重要になってくるかもしれない。問題の難易度の調整は必要だが、これらが当たり前のように問われるようになれば、思考力は格段に強化されるだろう。現在、教員は必ず思考力を評価しなければならない。ならば、学習指導要領に沿っ

ことができる。毎年9月に進学補習用のモニタリングを導入すると、翌月には、ほとんどの生徒の偏差値が6～10ポイント上昇する。図6はある学年の例だが、毎年こうした傾向になる。基盤が整うことで、論述問題の解答の質も上がり、12月にはほとんどの生徒の顔に自信や意欲が表れている。基盤整備の効果は絶大といえるだろう。

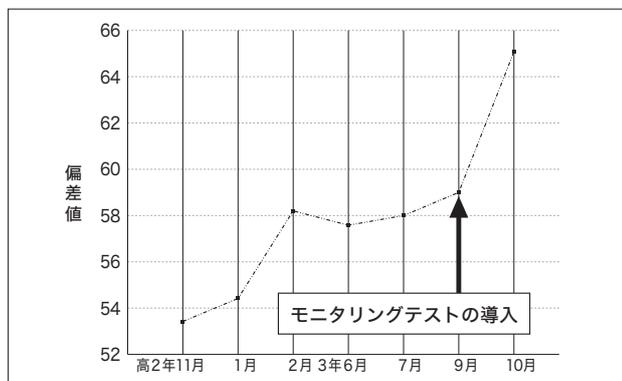


図6 モニタリングの効果

4 思考力問題の作り方

最後に、思考力で一番の課題である「問題の作成法」について述べる。思考力問題といえば記述式は定番だが、それ以外はないのだろうか。そこでもう一度、表1や図1～図4を見てもらいたい。思考力とは、知識の理解度や、それを使って判断する力である。同じ知識を持っていても、理解度で判断が異なることは珍しくない。つまり思考力問題作成の要点は「判断力」である。であれば判断力を問う問題、すなわち大学入学共通テストのような問題を作ればよい。とはいえ、そういう問題は作りやすくない。この問題を解決する手段が、教科書の本文を使った方法である。

例えば『新詳 世界史探究』p. 7～8の1部1章本文の「人類の進化」についての記述をまとめると、以下のようなになる（A～D等の記号は筆者による付加）。

- A. 猿人は打製石器を作成し、狩猟採集生活をおくった。
- B. 原人はアフリカ大陸外に広がり、火を使用した。
- C. 旧人は精神文化をもち、新人とも共存した。
- D. 新人は世界に拡散し、精巧な道具や芸術を発展させた。

実際の作業では、教科書本文を項（もしくはある程度内容のまとまり）ごとに、2～4分割するとまとめやすい。帝国書院の教科書の本文は内容のバランスが良いので作業しやすいが、指導書に付随の「指導書 Web サポート」の教科書本文データを使えば格段に楽になる。最後に主語をそろえるなど文章の体裁を整えてほしい。



図7 礫石器

『新詳 世界史探究』 p. 7 3

（写真提供：サイネットフォト）



図8 クロマニオン人の洞窟絵画（ラスコー）

『新詳 世界史探究』 p. 8 1

（写真提供：アフロ）

次は、タキソノミーを活用して思考力問題にする段階である。《点検する》問題（いわゆる知識問題）なら、一つだけ誤文（または正文）にすれば、選択問題にできる。《説明する》なら、猿人・原人・旧人・新人を削除し、以下のような文章にして、並び替え問題にできる。

- ア. 打製石器を作成し、狩猟採集生活をおくった。
- イ. アフリカ大陸外に広がり、火を使用した。
- ウ. 精神文化をもち、新人とも共存した。
- エ. 世界に拡散し、精巧な道具や芸術を発展させた。

《推論（予測）する》なら、以下のように礫石器（図7）やラスコー洞窟絵画（図8）の資料とA～Dのいずれかを組み合わせ、例えば以下のような正誤問題にできる。

- ア. 図7は、Aの内容に関する資料である。
 - イ. 図8は、Cの内容に関する資料である。
- | | |
|-----------|-----------|
| ① アー正、イー正 | ② アー正、イー誤 |
| ③ アー誤、イー正 | ④ アー誤、イー誤 |

最後に一つ、本稿の隠れた意図も示したい。それは、あえて選択式の問題作成法を取り上げることで、思考力問題は記述式だけではないことを理解してもらうことである。記述問題で思考力を判断できることは間違いないが、作問や採点が負担になることも否めない。読者はバランスを判断し、作問や評価に活用していただきたい。

〈引用文献〉

- i 藤永保監修（2013）『最新 心理学事典』平凡社
- ii 石井英真（2023）『中学校・高等学校 授業が変わる学習評価深化論—観点別評価で学力を伸ばす「学びの舞台づくり」—』図書文化社
- iii 平山のみほか（2010）「日本語版批判的思考能力尺度の構成と性質の検討—コーネル批判的思考テスト・レベルZを用いて—」『日本教育工学会論文誌』33巻4号、日本教育工学会